

第2回滋賀県多職種連携学会研究大会報告書

(旧 滋賀県連携リハビリテーション学会)

学会テーマ：多職種連携で生み出す地域共生社会

開催日時： 平成30年2月16日（金）
開催場所： 栗東芸術文化会館さきら
学 会 長： 猪飼 剛（一般社団法人滋賀県医師会 会長）
実行委員長： 濱上 洋（一般社団法人滋賀県病院協会 副会長）
参加者： 201名

開会式 学会長挨拶（ビデオメッセージ）

知事メッセージ 「健康しがをめざして」滋賀県知事 三日月 大造



基調講演

「地域共生社会の実現のために」

講師：村木 厚子 氏（元厚生労働事務次官）

座長：濱上 洋 氏（滋賀県病院協会）



シンポジウム

「多職種連携で生み出す地域共生社会」

シンポジスト

- 社会福祉法人やまなみ会やまなみ工房 山下 完和 氏
- 重症児サービスふぁみりい 柴田 恵子 氏
- 高島市リハビリ連携協議会 川島 直之 氏
- 米原市地域包括医療福祉センター「ふくしあ」 中村 泰之 氏

コーディネーター

- 滋賀県社会福祉協議会 滋賀の縁創造実践センター 谷口 郁美 氏



企業展示

滋賀県産業支援プラザのコーディネートにより4社

- 株式会社アートプラン
- 株式会社イマック
- グンゼ株式会社
- 株式会社システムネットワーク

作業所販売

- 社会福祉法人 虹の会 ドリーム・あんです
- 社会福祉法人 共生シンフォニー まちかどプロジェクト
- 社会福祉法人 滋賀県聴覚障害者福祉協会 びわこみみの里

表彰式

《学会長賞》

地域支援（甲賀）演題番号 4・5・6

セッション全体での受賞となった。

閉会式

企画演題

分類	座長	演題番号	演題および筆頭演者
企画演題	滋賀県立リハビリテーションセンター 野本 慎一	企画1	【まちづくり】 豊郷町でいきがいづくり！とよさと特産物振興協議会の活動を通じて！
			豊郷町産業振興課
			角田 成明
		企画2	【農福連携】楽しい農業、人を繋げる農業
			社会福祉法人 虹の会 大地
			杵谷 康司
		企画3	【医工連携】滋賀県の医工連携における取り組みについて
			公益財団法人滋賀県産業支援プラザ
			梅村 真資

(座長コメント)

高齢者や障害者が「支えて側」「受け手側」に分かれることなく、地域で助けあいながら暮らす社会の一つのモデルとして、豊郷町からは支え手が減少している農業分野で地域に結びついた特産物を利用した商品開発や、高島市からは福祉と連携した新しい「事業モデル」について発表があった。このようなモデルが広く普及すれば、障害者就労支援や高齢者の生きがい創出、介護予防につながると考えられる。

また、県下企業の技術資源を医療・介護福祉関係者と結びつける医工連携は「滋賀健康創生」に貢献すると考えられる。今回発表いただいた内容をさらに県下にあまねく発展させることにより、「地域共生社会」が確実に実現されることを期待したい。

演題発表

分類	座長	演題番号	演題および筆頭演者
多職種連携1	滋賀県 薬剤師会 十亀 裕子	1	権利擁護が必要な高齢者の入退院支援について考える 草津市玉川地域包括支援センター 西村 一也
		2	終末期在宅医療に薬剤師が関わることでこんなことが変わる!! ～多職種で終末期在宅を支えた一家族の症例 滋賀県薬剤師会 会営薬局 小杉 奈緒
		3	多職種の関わりで自信を取り戻し地域との交流を持てるようになった利用者の事例 リハぶらす地域看護ステーションながはま 川原 瑞紀

(座長コメント)

3演題とも、多職種が連携することにより、地域で心地よく暮らすための支援を行った報告であった。3例とも非常に困難を抱えた事例であり、多職種の関わりが無ければ地域での生活は難しかったと考えられる。印象的であったのはどの事例も対象者に敬意を払いつつ寄り添い、性格・思考・生活背景・それまでの人生を踏まえたうえで、より良い選択肢を探しながら地域での生活を支えていた点である。多職種がそれぞれの専門性を活かし、チームとして関わることにより、困難を抱えた症例であっても地域での生活が可能であることを示すことができた。

分類	座長	演題 番号	演題および筆頭演者
地域 支援 (甲賀)	滋賀県 保健所長会 荒木 勇雄	4	甲賀圏域における自立支援型地域ケア会議の 導入・定着・推進に向けた取り組み
			滋賀県甲賀保健所 山口 亜紀子
		5	甲賀市における自立支援型地域ケア会議の実際 -会議での検討後に専門職による自宅訪問を実施した事例-
			甲南病院 玉木 義規
		6	甲賀圏域におけるリハビリテーション専門職の活動報告
			甲西リハビリ病院 久保 貴弘

(座長コメント)

甲賀圏域（甲賀市、湖南市）では、高齢者のQOL向上を図るため、自立支援型のケアマネジメントを普及することを目的として、大分県杵築市の取り組みに学んで平成29年度から自立支援型地域ケア会議が定期開催された。

甲賀保健所および甲賀圏域の作業療法士会、理学療法士会から、地域リハビリテーションを推進する事業の一環として、リハビリ専門職を中心とした多職種の協力を得て取り組んだ自立支援型地域ケア会議の導入経緯をはじめ、現状と課題、今後の取り組みの方向性等が報告された。

医師、リハ職、ケアマネ、薬剤師、歯科衛生士等の多職種と市、保健所が一体となって取り組んだ様子がいきいきと表現された。ケア会議の開催を通じて、介護福祉関係者のケアマネジメント力が強化されるとともに、介護予防・地域包括ケアを推進する取り組みへと繋がることを期待される。

分類	座長	演題番号	演題および筆頭演者
摂食嚥下	滋賀県言語聴覚士会 家守 秀知	7	療育部における摂食嚥下障害に対する支援について 滋賀県立小児保健医療センター療育部 坂本 隆
		8	在宅における嚥下障害早期発見に向けて 一頸部聴診音による評価指標の確立の検討（中間報告）— 滋賀県立大学人間文化学部生活栄養学科 藤戸 遥
		9	学会分類に合わせた粘度の調整 —食材による粘度の違いと栄養価の検討— 滋賀県立大学人間文化学部生活栄養学科 土田 侑奈

（座長コメント）

摂食嚥下というテーマであると、成人がイメージされやすいが、小児分野も各市町において問題点としてあげられるケースは少なくないはずで、今回の報告でもありましたように、小児分野を担う専門職、支援体制が不足して、成人に比べて充実していないのが現状であります。現在各市町で地域共生社会の実現に向けて、様々な取り組みがされていますが、高齢者、障害者、子供などの対象者ごとに、支援の充実が図られ、その人らしい生活を地域で支えていける様に各関係機関が連携していく必要があると思います。

また摂食嚥下のアプローチに必要な食形態や臨床的指標となる嚥下音の報告もあり、今後も摂食嚥下において充実した対応・体制が求められていると改めて実感しました。

分類	座長	演題番号	演題および筆頭演者
リハビリテーション	滋賀県 介護老人保健施設連絡 協議会 宮武 恵	10	本院回復期病棟における胸腰椎圧迫骨折による 入院リハビリテーション加療の検討 琵琶湖中央病院 リハビリテーション科 坂井田 稔
		11	脊髄損傷患者の在宅生活・社会参加に関する状況調査 滋賀県立リハビリテーションセンター 乙川 亮
		12	脳卒中地域連携クリティカルパス運用における 回復期リハビリテーション病棟退院1～2年後評価の検討 市立長浜病院 南部 利明

(座長コメント)

3演題中2演題は疾患が異なるものの、回復期リハビリテーション病棟を退院後の追跡調査であった。1演題は ICF を基にした項目と生活満足度との相関を調べたもの、1題はサービスの利用状況と日常生活動作の変化を調査したものであった。どちらも、社会への貢献活動や役割がある人の方が自己効力感が高かったり、日常生活動作が維持、改善していることが示唆されていた。今後このようなデータは介護保険下で厚労省がデータ集積システムを導入していく事で容易に集積することができる。活動と参加を積極的に行うことが健康を維持する上で重要であるという事を発症する前いかに広く啓発するかという事が重要になってくる。

分類	座長	演題番号	演題および筆頭演者
調査研究・報告	滋賀県 理学療法士 会 大西 均	13	滋賀県における作業療法士が取り組む自動車運転支援の現状と課題 ～アンケート調査からわかった今後の課題～ 医療法人 恒仁会 近江温泉病院 奥野 隆司
		14	聴こえにくさを抱える方の現状とこれからの連携について －耳の相談会の実施結果より－ 滋賀県立リハビリテーションセンター 河合 祥行
		15	眼科術後の腹臥位安静における苦痛の経時的変化 滋賀医科大学医学部附属病院 中村 文香
		16	多職種連携に向けた作業療法学生教育 －「箱づくり法」を用いた教育実践報告－ 滋賀医療技術専門学校 作業療法学科 嶋川 昌典

(座長コメント)

医療機関および教育機関からの研究報告がなされた。ドライブシミュレーターを使用した作業療法の報告では、障害者の運転技術の評価を日本全国で作業療法士が担っていく未来が垣間見られた。難聴の相談会からの報告では、補聴器の専門家の存在が明らかとなり、難聴者の相談先を知ることができた。眼科術後の腹臥位では、主に頸と肩の痛みが患者を襲い特に4日目に強いことが報告され、今後その対処方法が検討されるきっかけとなると考えられた。箱作り法を用いた作業療法の学生教育と臨床実習報告は、多職種が共有する精神科作業療法の一つとして新しい報告であった。他業種の報告は大変興味深いものであり良い時間となった。

分類	座長	演題番号	演題および筆頭演者
多職種連携2	滋賀県 社会就労事業 振興センター 城 貴志	17	職種間評価結果からの連携に向けた考察 -JC/リハ職/相談支援員は社会生活77項目をどう評価するか - 滋賀県立リハビリテーションセンター 中井 秀昭
		18	多職種連携に向けた協業 ～当事者を交えた研修会の紹介～ 豊郷病院リハビリテーション科 岩田 夏彦
		19	「我が丸ごと」の第一歩～当社の多職種連携の取り組みについて～ 株式会社 ジッセントシップ 中村 佳子

(座長コメント)

このセッションでは、3題とも作業療法士による多職種連携の具体的な取り組みが発表された。

演題17においては、高次脳障害がある方の社会生活全般における評価が同じ事例においても職種によって差異が生じることが示され、まさに多職種連携による複合的な視点で支援対象者を支えることの重要性が報告された。

演題18においては、精神障害当事者が参加する研修会を開催し、当事者視点を徹底した取り組みを言える。これは、支援者の考えや視点のみでの支援を防ぐための重要な取り組みである。

演題19においては、高齢者と子どもが時間と空間を共有するまさに地域共生型社会につながる取り組みである。

3題ともセラピストが地域の関係者や当事者と繋がり、連携しながら取り組む具体的実践であり、地域における分野・職種の連携の重要性を再確認できるセッションであった。